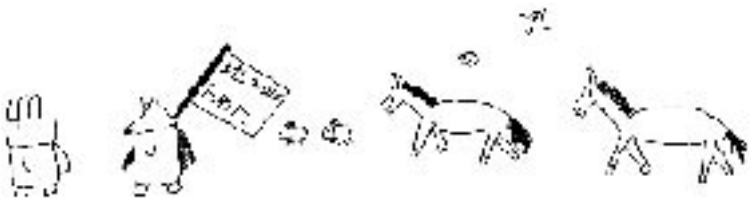
ピースウォーク浜岡

浜岡から風下へ200km、放射能ではなく希望の種をまこう！
1号機廃炉を求める一週間のウォークが2月20日から始まります。

今回のウォークの目的

東海地震の震源の真上にある浜岡原子力発電所で1号機が続けて重大な事故を起こしました。東海地震に原発事故が重なるような大惨事を防がなければなりません。地球の営みである地震は止めることはできませんが、原発は人の手で、止められます。

現在1号機は事故原因を明らかにするために運転を一時停止しています。今回の事故を２５年以上も働いた老原発からの警告と受け止め、中部電力と関係機関に「1号機廃炉」を求めます。



静岡県は中部電力との間で『原発の周辺環境の安全確保に必要があると認めるときは県と5町（浜岡、御前崎、相良、大東、小笠）が立ち入り調査や中電側に報告を求めることができる』という協定を結んでいます。現在5町のうち小笠町が廃炉を要請しています。さらに協定外の2市2町（掛川市、焼津市、吉田町、大須賀町）も廃炉を求めています。

また、兵庫県に続き、原発のない長野県でも県防災会議で原発事故を含む災害対策をもりこむ動きが始まっています。このような動きの中、遠くに住んでいても原発周辺の人たちにだけ原発問題を押しつけていてはいけない、と気づかされました。

そこで協定や行政の線引きとは関係なくやってくる放射能を心配する者としてわたしたちも中電や県、国へ『1号機廃炉』の申し入れをします。そしてもっとも大きな影響力をもつ地元の人たちを応援することも、私たちにできることのひとつではないかと思い、周辺5町へ応援文を届けます。チェルノブイリ事故の時、４５８の村が廃村になり、原発から一番遠い村は実に２８０kmも離れていたといいます。浜岡から風下へ２００kmのひとつが東京です。原発から遠く離れているようでも、私もあなたも当事者なのです。

（のらや）

私たちが暮らす地球はあらゆる汚染にむしばまれています。
大地の子らはうろたえ・さまよい・ぶつかりあう。
平和・調和・愛が織りなす「美しい道」を見失ったまま
どこへ向かうというのでしょうか。

わたしたちのへその緒「人間の根っこ」は地球につながっています。
わたしたちがどこから来たのかを忘れなければ
希望の未来が見えてきます。　（アマゾン先住民）

草が木が花が地球に根を張り、天を仰ぎ、ひかりに向かっている。
母なる大地の鼓動に耳を澄ましいのちのはじまりである
大気の息に吹かれながら森羅万象の本性がひかりへ向かっている。
ありのままがひかりへ向かっている。
じゅずのように連なりつながるいのちの輪。

一人ひとりが授かったいのちの本性がひかりへ向かっている。
天を仰ぎ、地を踏みならしひかりの方へ。

僕たちを夢見ている　夢がある　（ピグミー民族）

■参加ご希望の方へ
・参加希望の方は下記のらやまでご連絡ください。・行進への参加はすべて自己負担・自己責任でお願いします。・天候に関わらず歩きますので、防寒具・雨具を持参して下さい。・寝袋・おわん・はし・カップなどご持参ください。

■ウォークサポートのお願い
・宿泊の提供（持参の寝袋・雑魚寝で大丈夫です）・炊き出し、差し入れ歓迎！・行進途中でのお茶、昼食のおにぎり、パンなどありがたいです・車での手配、伴走車の運転、宿泊地までのピストン輸送など

お問合せ　**のらや（塩田・長野県高遠町）**
Tel/Fax:0265-96-2687

インターネットでウォーク情報が見られます。http://www.otsukim.inet/walk/